

# 令和5年度学校評価シート（自己評価）

かぴら幼稚園

令和5年3月

## 1、園の教育目標

真実の人生を精一杯生き抜こうという仏教精神に基づき、「心と体の健康づくり」をモットーに楽しい集団生活を通して、社会性を身に着け、調和のとれた人格形成を目指す。

教育目標

1. 素直なこども（無心に手を合わせる気持ちを大切に）
2. 心の暖かいこども（お互いを認め合う。喜びも悲しみも共にする。自然に親しみ、感動する心）
3. 意欲のあるこども（初めてのことに挑戦する。自分に勝つ。正しい勇気を発揮する。）

## 2、具体的な目標や計画

- ・創立以来、培ってきた全園児を全職員で保育、教育を行い、園児を中心に教職員と父母、地域のボランティアの力もお借りし、本当の意味での教育的な環境を作り上げ、園児たちを育ててきたかぴら幼稚園を、現在の社会の変化に対応し、保護者のニーズに応え、そして何よりも子ども達にとって必要なものを与えることができる幼稚園に進化させるための取り組みを引き続き推し進めていく。
- ・平成31年4月より幼稚園型認定こども園の認定を受け、両親が共働きであってもかぴら幼稚園の教育を望む家庭を受け入れしやすい仕組みは整ったため、教育面でのさらなる充実と環境面での安全性を高めていく。
- ・5月に新型コロナウイルス感染症が5類に切り替わることを見据え、ポストコロナの園生活に切り替えていく。これまで制限していた活動を再開するにあたっては、あらためてその意義、目的を確認し、現在の園児達に適した形で行うことを意識する。また、コロナ禍の中で行った試みで良かったものについては、継続していく。
- ・園生活において、ICT化をさらに進め、園生活の安全性、保護者の利便性、そして、教職員の働き方改革、働きやすい環境整備をすすめていく。また、毎月の避難訓練を通して防災教育に取り組んでいくとともに安全で快適な保育教育環境を整えていく。

## 3、評価項目の取り組み及び達成状況

評価項目	結果（※）	取り組み状況
情報発信力の強化とICT利用の推進	B	<ul style="list-style-type: none"><li>・HPのブログによる園生活報告をこまめに行い、園の様子をよく伝えることができた。ブログ更新を各学年の担任が行い、学年ごとの活用をよりきめ細やかに伝えた。Instagramもアカウントを取得し、SNSを上手く活用して情報発信を行っていく。</li><li>・一斉配信メールを活用し、台風や雪の時の対応など迅速に情報発信を行った。ICTシステムによる出欠申請や登降園管理を本格導入することで保護者並びに園側の利便性を高めた。</li></ul> 特に、各クラスのIPADを用意し、担任がICTアプリを利用して、出欠、預かり保育の利用や保護者からの連絡を職員同士で共有することで連絡ミスがへり、対応の質の向上にも繋がった。

園内環境の整備・充実・活用（安全面の施設強化）	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全園バスに降ろし忘れ防止装置の設置を行ったと同時に設置後も、降車後の車内点検は複数名で行うことを引き続き実施している。</li> <li>・各クラスに二酸化炭素モニター、空気清浄・除菌装置し、室内の環境整備管理に活用。</li> <li>・高齢化した園庭の樹木を伐採するなど園庭の整備を行った。また、茂った樹木が作っていた木陰にかわる日よけを夏の期間は設置し、熱中症対策も行った。</li> <li>・3月下旬に保育室内に設置されているアップライトピアノに転倒防止のためのガードを設置する予定。</li> </ul>
ポストコロナ後の園行事及び活動の再構築、並びに園児の活動量と運動機能強化を意識した取り組みの実施	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会は、全学年で園庭で実施、人数制限は解除した一方で、暑さ対策や園児並びに保護者の負担軽減のため午前中開催とした。</li> <li>・朝のラジオ体操、ジョギングを継続し、体力づくりに務めた。また、安田式遊具の普段からの更なる活用に努め、運動会でその日々の成果をサーキットという形で鉄棒、マット、跳び箱、雲梯、平均台等を使ったサーキットとして披露、園児一人一人、個別の目標を定めて挑戦する良い機会となった。</li> <li>・リズムあそび会は、全学年で行った。コロナ禍の中、開催時間は、合奏とうたの発表会を別に設けて行ったが、準備期間に詰め込みすぎにならず、当日の開催時間の短縮にもつながり、拘束時間が長くなりすぎず、園児と保護者双方の負担軽減となった。</li> </ul>
保育者の資質向上	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアアップ研修の受講の促進と新規採用教職員研修の受講。</li> <li>・園内研修にも力をいれ、外部講師を招いて、コーチング、自己肯定感を高める関わり方について学んだり、オンラインにて園での防災意識の向上に係る研修も受講。月1回の防災訓練も様々な想定の下行っているが、新たなヒントと意識すべき点を学んだ。保育者としての健康増進を目指し、3B体操の研修も行う予定。</li> <li>・不適切な保育の防止への意識向上に努めたが、保育者同士意見を交わしたり、議論を深める機会を設ける時間確保は、難しさを感じた。</li> </ul>

#### 4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<p>園生活内でのICTの活用、特に保護者との連絡においては、園職員並びに保護者も利用することに慣れて、双方ともメリットを感じる事ができた。</p> <p>今後もICTの積極的な活用をすすめ、園児の安全担保や教育保育内容の充実に繋がる業務の効率化に努めていきたい。</p> <p>ポストコロナの園生活の中では、体力作りを意識してきたが、マラソン大会や卒業ハイキングでは、その成果を感じられたと思う。安田式遊具の日々の活動での活用と運動会での種目に取り入れることで、ふだんの園での取り組みを発表する形となったことは良かった。また、クラス、学年の仲間と協力して作り上げる鼓笛隊やバルーンの種類とともに、園児一人一人が鉄棒や雲梯で何をどこまで頑張るか目標を設定し、それに向けて頑張ることで意欲的になる姿もみることができた。集団としてのダイナミズムを活かすとともに、いかに個々にそれぞれあった意識を向けていくことができるかをこれからも保育の課題としていく必要があると思われる。</p>

○結果 (※) について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
未就園児教室と園開放子育て支援の充実	コロナ禍の中、未就園児親子に園に来てもらう機会が大きく減ったことの影響は大きく、園庭開放を今年度は、学期ごとに数回設けたが天候や感染症の流行等の影響にて実施できない日も多くあったことは残念だった。次年度は開催頻度を上げてしより多くの親子にかぴら幼稚園を知ってもらう機会とするとともに、子育てについての相談を気軽にできる場としても地域の子育て世代の一助になれるよう努める。特別感のあるイベント企画など未就園児教室や園開放日へ新規参加者を増やすための工夫を行っていく。保護者への情報発信ツールであるとともに、広報活動の主体として HP や SNS を上手く活用し、情報を更新していく。
安全管理	引き続き、通園バスの安全な運航管理につとめる。また、安全な園内の環境整備を行うための点検等について見直しを行い、園庭の樹木の管理（伐採や新規植樹も含む）とともに砂場の日よけ対策としてパーゴラを設置し、遮光ネットを張って、夏の時期に園庭に日陰スペースを確保する。夏から秋にかけて行う本園舎の屋根、壁の大規模修繕に合わせて、より安全に使えるよう室内の環境整備も行う。
保育の質の向上と発達支援巡回事業の更なる活用	定期的な保育の振り返りを行うことで、不適切な保育に対する意識を高め、虐待等に繋がるような行為を未然にふせぐ。小学校への接続を意識した教育カリキュラムの実践と地域の小学校との連携をより深めていく。 診断にまで結びつくことはなくても、言葉の遅れや発達の具合の幼さを感じる園児が増えている中で、発達支援巡回事業等とおして、教職員が特別な配慮が必要な園児に対する理解を深め、より適した対応を学んでいく。また、必要なサポートに上手く繋がることのできるよう、保護者との信頼関係を築いていくよう努め、それぞれの園児がより健やかに成長していけるよう関わり方を工夫していく。